

## 第2回学びの多様化学校等の設置に係る検討会議における主な意見

## &lt;論点1&gt; 安全・安心な居場所・体制について

## ◇「学校らしさ」を消す工夫

- ・学校を想起させるものをできるだけ排除することが大切である。
  - 教室を「ルーム」と呼ぶなど、名称・呼び方を工夫する。
  - 天板の色が違う机や円にできる机など、一般的な学校使用のものから変える。ただし、学校らしい机が嫌いではない子どももいるため、どちらも選べるようにすることが必要。

## ◇多様な空間の確保

- ・一人でいたい子どもや誰かと関わりたい子ども等、様々な子どもに対応できるスペースの確保が必要である。(学習スペース、パーソナルスペース、交流スペース等)

## ◇既存施設の活用

- 多目的ホールは広く、明るい空間であるため、多目的ホールを中心に活用してはどうか。
- 30人規模には3階建ては広すぎるため、(リスク管理の点からも)当面は3階を使用しないことも考えてみてはどうか。

## ◇リスク管理

- ・希死念慮や自傷リスクへの配慮が必要である。
  - 窓は全開にならない構造にする。
  - 危険物を置かない。
- ・生徒間トラブルへの配慮が必要である。
  - 死角(教職員から目が届かない場所)をなくすことが必要である。
  - 鍵付きロッカーを設置してはどうか。(生活習慣が乱れている子どもや人への信頼が薄い子どもが集まることや紛失トラブルの防止、自己管理の習慣化等の点から)

## ◇登校確認・見守り

- ・QRコードシステム等による登校確認を検討してはどうか。ただし、「管理されている」と感じる生徒もいるため、保護者と相談する必要がある。
- ・地域のボランティアの方が学校に入ってもらうことで、生徒が落ち着く効果が期待できるのではないか。
- ・生徒と地域の大人が「斜めの関係」でつながることが安心感につながるのではないか。

## ◇教職員の資質

- ・物的な環境整備だけでなく、教職員がどのような資質を備えるかとセットで考える必要がある。

<論点2> 生徒基点の学びについて

◇時間割について

- ・時間割の中で、どの順番ですか（今日は国語、数学、創造、コアの順番です等）自分で決められるとよいのではないかと。
- ・個別ですか、集団ですか選べるとよい。

◇「(仮称)創造」について

- ・教員のレベルを超えた専門知識を持つ子どもがいることも踏まえる必要がある。
- ・既存教科の枠にこだわらず、その子の得意を深められる選択肢を用意すべきである。
- ・「自分にはこれがある」という自信をもって卒業できるようにしてほしい。

◇評価・進路について

- ・高校入試を見据えた評価の整備が必要である。

◇通学方法について

- ・「朝少し遅れても来られる」という選択肢を確保することが重要である。
- ・子どもの状況を踏まえた公共交通機関の整備が必要である。
  - ・9時20分頃に登校できる便があればよいのではないかと。(三次駅を8時26分発のバスしかなく、実質8時20分までに登校しなければならない。)
  - ・9時30分始業に対応した便(三次駅までの便、三次駅からの便)を増やすべきである。
- ・送迎を検討してはどうか。
  - ・教職員や地域住民による送迎を検討してはどうか。ただし、リスク管理に留意する必要がある。
  - ・車に乗せるのではなく、「声かけ・起こしに行く」ととどめているケースもある。
- ・朝起きられない子どもへの対応として、薬で調整できる場合もあるが、医療との連携が必要である。

◇給食について

- ・弁当と給食を選択できるとよい。
- ・弁当の準備が困難な家庭への配慮も必要である。
- ・「みんなで一緒に食べる」スタイルがストレスになる生徒がいることも踏まえる必要がある。(一緒に食べることを強制しない。)
- ・「昼食をつくる」ことが、授業(家庭科)の一環として、学びにつなげられるのではないかと。

### <論点3> 本市の資源を生かした体験・探究

#### ◇地域資源を生かした体験・探究

- ・体験・探究活動への参加が難しい生徒もいるため、強制しないことが大切である。
  - ▶オンライン中継で「画面越しに見る」ところから始め、「面白そう、行ってみよう」という気持ち  
が育つのを待つ等、段階的にアプローチする仕組みを導入してはどうか。
- ・体験・探究活動が人と出会う場となっている。
  - ▶地域住民(ゲストティーチャー)や子どもが気軽に入ることができ、相談したり、一緒に活動  
できる地域連携の場(部屋)を設けてはどうか。  
ゲストティーチャーのプロフィールを張ったりすることで、子どもも教員も相談しやすい仕組み  
をつくれるのではないかな。
- ・体験の場づくりを行っても、すべての子どもが自発的に参加するわけではない。教員も地域の  
方も一緒に子どもの学びを支える仕組みがあるとよい。
  - ▶参考として総社市ひきこもり支援制度があげられる。(ひきこもり支援サポーター養成講座、  
居場所づくり、社会参加に向けた機会づくりと支援)
- ・スタッフが活動の準備に追われ、生徒との関わりが薄くならないよう、留意すべきである。生徒  
基点で優先順位をつけ、段階的に展開することが重要である。
- ・「こういうことをやってみたい」という声が出たときに、それを全力でサポートする方  
法がよいのではないかな。

### <論点4> どこでも学べる(アクセスできる)環境

#### ◇オンラインの活用について

- ・「自分の存在が相手(学校)に伝わっている」と感じる方法で行うことが重要である。
- ・オンラインでは臨機応変な対応(プリントを届ける等)が難しい。オンラインは「最後の手段・補  
完的な手段」として位置付けるべきである。
- ・デジタル依存のリスクにも注意が必要である。

### <その他>

#### ◇論点について

- ・保護者の理解も必要不可欠である。保護者への支援についても論点としてほしい。

#### ◇学校生活について

- ・部活動や生徒指導規定はどのようになるのか。